



▼ 大盛況

去る2月1日・2日にかけてJSAF外洋合同会議が函館湯の川万惣ホテルで全国から60名の各委員会の委員長・加盟団体・特別加盟団体のメンバーを迎え開催された。昨年は沖縄で開催され井口外洋津軽事務局長の誘致もあり実現に至った。当協会は元より青森セーリングクラブ、NPO函館セーリング協会の支援もあり。懇親会は当協会の新年会も合わせ盛大に行われた。

事前に道南の特徴を出そうと民謡の大家、佐々木基晴先生に出演依頼をしての江差追分や道南口説き等日ごろ聞きなれた民謡を堪能した。また、前田さんの口添えもありダンスチームの登場は参加者の度肝を抜かれたに違いない。また、今回は6千円の会費で万惣ホテルさんにもご無理を頂きお料理も満足したものになったと思う。宴も佳境に入り全員で集合記念写真(後ほどJ-セーリングに掲載)を撮り乾杯へ発声は次回開催地の長崎の会長?か大いに盛り上がりそのまま二次会へ・・・ほぼ全国から集まったメンバーは参加し、大いに談義に花が咲いた。

2日目の午後からは当協会メンバーを中心にJSAF外洋安全委員会委員長の大坪氏から特に落水時の対応を中心にライフベストの種類や管理について3時間あまり講演を受けた。

今回の合同会議はJSAF外洋津軽や南北海道外洋帆走協会の存在感を増した会議であったと私は思う。

J S A F 外洋・南北海道外洋帆走協会新年会
収支計算書

収入

南北海道外洋帆走協会会費	373,000円
J S A F 外洋 前泊代 4名	16,000円
懇親会 54名	324,000円
宿泊代 22名	66,000円
会議部屋代	20,000円
N P O 函館セーリング協会	100,000円
青森セーリング協会	100,000円
南北海道外洋帆走協会	100,000円
不足分(外帆で補填)	42,500円
合計	1,141,500円

支出

佐々木基晴(民謡)	80,000円
ダンス	50,000円
講習会講師代	20,000円
会議部屋代	25,000円
二次会ビールおつまみ	22,328円
万惣お酒代(二次会)	7,500円
お酒(田酒他6本)	19,742円
食事代 105名×6,000	630,000円
宿泊代 48名×3,000	144,000円
前泊代(J S A F)4名	16,000円
講師慰労会	
(jsaf大坪委員長・石川・前田他)	35,430円
お土産(外帆Tシャツ61名分)	91,500円
合計	1,141,500円

▼ 泊地より

平成26年の上・下架を以下のように予定しております。

3月30日(日)	8:00	前期上架
4月20日(日)	8:00	前期下架・後期上架
5月11日(日)	8:00	後期下架

上・下架のシフトは後日泊地委員会から発表されますのでご協力お願いいたします。

永い沈黙を破り、熊谷巨匠が書き下ろした最新作堂々復活

アンカーライト

第16話 BAYサイド

ポンツーンから0.2マイルのBAYサイド。

シーズン中は外来艇がいることが多く混み合う時もあるが、だいたいは接岸できる。

接岸して艇呑みするのが一番多い場所だ。土曜の夕暮れに艇を出して摩周丸あたりをフラフラしたあとBAYサイドに着けてジントニックを一杯。今夜のジンはボンベイにしてみようか。夕暮れのBAYサイドは観光客や通る車もさほど多くなく、ゆったりとトワイライトタイムを堪能できる。目の前にはBAYのイルミネーションがまばたき、夕風で少しも揺れない艇上での至福の時間が始まる。キャビンからは大好きな「ベバリー・ケニー」のヴォーカル「ゴー・アウェイ・マイ・ラブ」が聞こえ、つつい杯の数が増えていくのはしかたがない。曲が「アゲイン」になった。そろそろ酒を変えようか。次にいきたいのは・・・やっぱウイスキーベースだねえ。となれば「マンハッタン」それも「ドライマンハッタン」がいいなあ。では次にかける曲はやはり「リー・ワイリー」の「マンハッタン」しかないねえ。この1925年にハート&ロジャースの名コンビにより作曲され、1962年に吹き込まれた名曲、行ったことはないけれどマンハッタン島のほとりの掘割の片隅にある一軒のBAR。その中で一人の初老の紳士が思いを馳せながらカクテル「マンハッタン」を静かに口にはこぶ。紳士の脳裏にはかつて時間をともにした女の姿がおぼろげによぎる。そしてこうつぶやく・・・「ああ、またあの頃の君にいたいものだ・・・」と。

マンハッタンの夜は更けてゆく。

ロレンツ・ハート&リチャード・ロジャースのコンビはガーシュイン兄弟と並ぶ名作曲コンビとして数多くの名曲を残している。次は彼らのメドレーを聴くこととしよう。まずは目の前に停泊している「ブルームーン」そして「マイロマンス」、「恋に恋して」、「イツ・ネバー・エンタード・マインド」、と続き最後は「マイ・ファニー・バレンタイン」で閉めた。ああ、すっかり酔っちゃまった。こんな文章が出てくるのもBAYサイドで呑んでる気分のなせるわざか。なに?お前には似合わん?

追伸 「ア・シップ・ウィズアウト・ア・セイル」という気になる題名の曲もつくっているのだが誰ぞご存じですか?